

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
430	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名（原題／訳）	
Alcohol and cardiovascular diseases. アルコールと循環器疾患	
執筆者	
Klatsky AL.	
掲載誌（番号又は発行年月日）	
Expert Rev Cardiovasc Ther. 2009 May;7(5):499-506.	
キーワード	
アルコール摂取 循環器疾患予防	
<b>要 旨</b> 循環器疾患においてはこれまでの疫学研究は、多量飲酒者でリスクが増加し、少量飲酒者でリスクが減少する仮説を支持している。多量飲酒者の循環器疾患のリスクの増加は心筋症、全身性の高血圧、上室性不整脈、脳出血、心不全の増加など冠動脈疾患と関連のない循環器疾患の増加を含んでいる。少量から適量飲酒者は循環器へのリスクの増加とはおそらく関連しないが、冠動脈関連の心不全、脳梗塞、冠動脈疾患のリスクの低下と関連している。このことはアルコールの冠動脈疾患予防説はエタノールによる生物学的メカニズムによっても支持されている。ワイン(特に赤ワイン)の非アルコール性の成分はワインのさらなる予防作用について説明できるが、ワイン飲酒者の健康的な飲酒パターンや循環器疾患の予防な生活はワインの循環器疾患の予防効果をより強めている。健康のための飲酒の妥当性についての助言はリスクベネフィットに従って個人に合わせた形で行う必要がある。	